

Japanese Patent Laid-Open Publication No. 54-27083

Publication Date : March 1, 1979

Patent Application Number : 52-90819

Application Filing Date : July 28, 1977

Inventor and Applicant: Kiichi Warashina

Method of Improved Simplified Printing Process

The present invention relates to a method of an improved simplified printing process for rising a nap on textile. According to the present invention, when a number of parallel napping areas A are formed on an original textile, all mutual spaces B which are located between adjacent parallel napping areas A are bent at center position lines C so that the naps and the line widths A arranged in parallel do not get out of shape. By doing this, the mutual spaces B between the napping areas A protrude to the back side surface of the original textile with the both ends of each space B being closer by an equal half width of the space B. Then, the original textile gives such a configuration that all the parallel napping areas A are linearly continuous. According to this process, the napping areas A are scratched up with a napping brush made of a metallic interstitial needles. When the intended napping operation finishes, the parts B which are located between the continuous napping areas A are released, and the center portion lines C are unbent, whereby the mutual spaces between the napping areas A are restored to the original position.

⑬日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開
昭54-27083

⑤Int. Cl.²
D 06 C 23/02

識別記号

⑥日本分類
48 C 22

庁内整理番号
7211-4L

④公開 昭和54年(1979)3月1日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭擦染加工の改良簡易方法

①特 願 昭52-90819
②出 願 昭52(1977)7月28日
③発 明 者 薬科喜一

⑦出 願 人 泉大津市式内町1の4 薬科喜一
⑧代 理 人 泉大津市式内町1の4 弁理士 宇津呂義雄

明 細 書

1 発明の名称、擦染加工の改良簡易方法

2 特許請求の範囲

あらゆる織物に縦型、横型或は斜柄状に起毛加工処理を施すことで、従来のように起毛加工処理が生地全面を対称にした方法と異なり、本方法は加工処理部分の間隔又は縦横、斜等を相互に工夫して、あらゆる目的に合致した模様を現出させ得るようにし、又間隔も広狭又は交互に凹凸を対称に配置し、或いは波型をも配置して仕上げ得ると共に、整形と起毛加工処理をも完全に加工することを同時仕上容易にした改良簡易加工方法である。

3 発明の詳細な説明

本発明は生地全域を均等なる濃度で保持し続けながら生地に多くの起毛平行線Aを設けようとする起毛並びに縞巾Aを狂わさない如くに、並列し相互の間隔Bを中心位置Cですべてを表面へ折曲げて、AとA

の相互間部分BをBの両側にある均等の半巾づつを接近させ乍ら生地裏面側に突出させた状態に保持する。

その時本生地はすべて起毛平行線Aを一直線連続状になし得る。この状態を永く保持させるため1時的にAとAとの相互間隔BをC線で裏面に引込めるものである。斯くすることで全周性で尖先を削って深褐色々と調整して成る折り込み針を構成せる起毛刷毛でかき起し得るようにした。

昔はアイズの器具を用いていたが今は簡単に入手も確し、斯くの如く起毛平行線Aばかりか連続し合つたものになり得たので更に起毛作業は容易になし得た。目的の起毛作業がなし得た時には起毛平行線AとAを連結せる部分Bを解き、B巾の中心位置Cを分離する時は元のAとAの相互間隔Bは元に戻元する、この目的とするところは起毛平行線Aのすべては連続中に起毛作業を達成し得て、上記起毛平行線Aは簡単にB間隔地を残してこの起毛しないBで連続保持さ

れるものである。

これ等の加工中超毛平行線域Aに図に示す如く適宜にハート形押部D、又はダイヤ形押部D'を例示の如く配置することもあり得るが、この時はこれ等の押部D又はD'はこの部分のみ超毛作業は防止されて縦横状に超毛なき部分を残存させ得る。

初めに記載せる如く斯くの如く超毛平行線域Aばかりが連続し合つたものとしたので、茲に超毛作業は容易かつ好生状になし得た。時には超毛平行線域AとAを連結したる部分Bを解き、B巾の中心位置の線Cを解き分けた時は、最初のAとAとの相互間隔地Bは元の状態に還元する。上記のこのAとAの連続作業は専ら装束加工の主目的を簡易になし得るためと、極めて清らかに超毛作業のなさない部分を残し得る効果を生み出したものである。

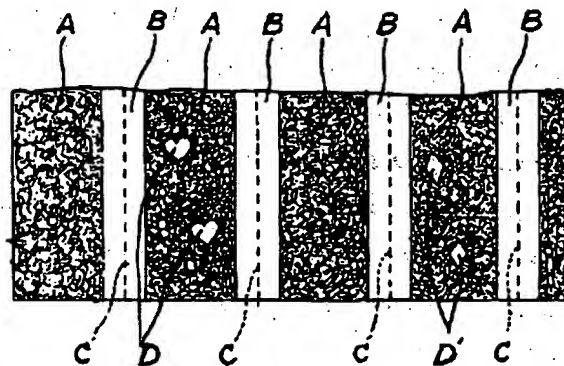
★ 図面の簡単な説明

第1図は数個の超毛平行線域Aの各間に折曲げる中間

特開昭54- 27683(外)
部Bを設けて、更にそのBの中央に折曲線Cを配置したところの平面図であり、第2図は超毛平行線域AとAの中間に折曲げ部Bを設けその中間線をCで示したもので折曲た時は各Aは接近してある。

特許代理人 葉神 亮一
代理人 宇津 昌雄

★ 1 図



★ 2 図

